

# Shimadai<sup>izm</sup> News

Vol. **26**  
2017.5

オンリーワンの  
キャリアへの道



新年度がスタート！ 春はときめきの季節

## CONTENTS

- ▶ 今年度の卒後臨床研修センターの取組
- ▶ 教えられ上手のススメ
- ▶ 研修医室から
- ▶ 文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業  
「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」平成29年度事業について
- ▶ 私の履歴書
- ▶ 行事のお知らせ
- ▶ 平成30年度採用 島根大学医学部附属病院  
医科研修医選考試験日程
- ▶ 診療科等紹介コーナー

## 今年度の卒後臨床研修センターの取組

卒後臨床研修センター長 鬼形 和道

“専門研修を見据えた初期臨床研修プログラム”をコンセプトに、シームレスな初期～専門研修の充実を通して、地域医療の現場で指導者および教育者となる若手医師の育成を目指します。本院の初期および専門研修プログラムは、ひとりひとりのニーズを取り入れ各々のキャリア形成を考えています。新専門医制度に対して、「専門研修等部門」を設置するとともに、しまね地域医療支援センターと連携し、地域医療に配慮した専門研修を提供します。

### NPO法人卒後臨床研修評価機構の受賞

4年ぶりにNPO法人卒後臨床研修評価機構の審査を受けました。ご協力いただいた各部署の皆さまに心より感謝申し上げます。前回指摘された問題に対する本院の改善策が評価され、今回も4年間の認定証をいただきました。当センターの初期研修医の明るい表情と巧みな受け答えが印象に残りました。研修医が前傾姿勢で臨床研修に臨める環境が整備されつつあると実感しました。インシデントレポート提出率、CPC参加率などの問題点はありますが、次回の審査に向けて本院研修の改善を図る所存です。



### 北米ベストティーチャーPaauw教授来る

今年もWashington大学のPaauw教授が来学され、医学生、研修医、そして指導医にハイレベルの医学教育を魅せてくれました。医学部5年生と6年生はそれぞれ気合の入ったケースを用意し、熱い臨床推論を繰り広げました。初期研修医とは抗菌剤ワークショップを、臨床研修指導医会および学内FDでは教育法（良質のフィードバック）を熱く語っていただきました。彼の人間性そして教育論に触れた若手および指導医が、これから本学の医学教育をリードしていくと信じています。



## 教えられ上手のススメ

卒後臨床研修センター 助教 和足 孝之

やっと春になり、桜の花が咲いたと喜んでいたら、あっという間に散ってしまいました。さて、4月7日～8日と島根県内全新研修医に対して研修医の心構えをお話しさせていただきました。自分がいかにできる研修医であったかを話すことなどおこがましく、自分がやらかしてきた数々の失敗談が中心です。この季節はフレッシュな空気とともに医療安全の問題からも、また研修医の先生方のメンタルヘルスの問題でもとても一年で一番重要であると言われております。僕は若い未来の宝がストレスなく、すいすいと研鑽を積んで欲しいと心から願っています。自分の経験からの秘策は【教えられ上手】になることだと思います。人や環境のせいにするのではなく、自分が後輩に教えるのであればどのような後輩であれば教えたいか？それさえあれば、どこでもどんな時でも役に立つでしょう。指導医は熱心で純粋な研修医が大好きなものです。研修医（学生も）の皆さん、合い言葉は、なべおたまです。な（なるほど）、べ（勉強になります）、お（おっしゃるとおりです）、た（確かに!）、ま（また御指導お願いします）。皆様の活躍を期待しています。



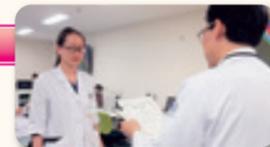
## 研修医室から 平成28年度の各賞受賞者が決まりました!

- ベスト教育研修医賞/笹森博貴先生、沖田聡司先生、眞見宜佳先生 他1名
- 研修医特別賞/小林美郷先生
- 早朝セミナー賞/上野明則先生、植敦士先生、内藤由紀先生

congratulation



先生方から受賞コメントを頂きました



植 敦士 先生

早朝セミナー賞ありがとうございます。個性あふれるレクチャーばかりで大変勉強になりました。また実際に発表することも良い経験でした。ここで学んだことを今後の診療に生かしたいと思います。

早朝セミナー賞

小林 美郷 先生

研修医特別賞ありがとうございます。先生方や看護師さんの温かいご指導に背中を押され、患者さんの優しさに救われてばかりの一年でした。尊敬できる先生方がいるこの島根大学病院で研修させていただけることをありがたく思っています。今年度もよろしくお祈りいたします。

研修医特別賞

眞見 宜佳 先生

ベスト教育研修医賞をいただき嬉しく思います。先生方やコメディカルの方々から多くのことを教えていただき、皆さんのおかげで楽しく充実した1年間でした。卒後臨床研修センターも含め、研修を支えてくださった方々には感謝しきれません。ありがとうございました。

ベスト教育研修医賞

## 文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」平成29年度事業について

医学部地域医療政策学講座 教授 廣瀬 昌博

平成25年度文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業～リサーチマインドを持った総合診療医の養成～に選定された「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」は、最終年度を迎えます。28年度は、学内外の連携強化によるあらたな取組みとして、西日本地区選定大学7校参加のミニフォーラムを長崎で開催し、本学では神経内科・認知症疾患医療センター、小児科、リハビリテーション科による「島根の在宅医療を考える実践セミナー」、ならびに行政や関連機関との連携で3大学FDである「地域包括ケアシンポジウム 地域医療構想に基づく地域包括ケア総合診療医の役割、大学の役割」を開催しました。

今年度は、厳しい財政状況のなか、トゥワイライトセミナーやオンサイトトレーニングなど島根の地域で活躍する医師や医療従事者の利便性を考慮し、地の拠点としての島根大学医学部の将来につながる研究・教育支援システムの構築を目指した活動を実践したいと思います。

## 私の履歴書 Part.23

- 麻酔科 医員 片山 望 先生
- 出身大学名/島根大学
- 取得専門医名/麻酔科専門医



私は平成21年に島根大学を卒業し、出身は徳島県でしたが親しみのある母校での研修を希望し島根大学病院で初期研修を行いました。じっくり取り組むタイプの私にとって大学での研修は学びの場が多く、また出会った多くの先生との繋りが今の臨床現場でも生きていて感じています。当初は内科医を志していましたが、呼吸循環という患者の生命維持を担う麻酔・集中治療に魅了され、また教育へも力を入れている麻酔科への入局を決めました。大学研修中は、若い医師に国際的な視野を持ってほしいという医局の方針で、アメリカやタイの病院見学の機会を頂きました。医師4年目に兵庫こども病院、5年目に松江赤十字病院で研修させていただきました。6年目には岡山大学病院で小児心臓麻酔研修の機会をいただき、

現在は当院において小児心臓チームで周術期管理に参加させていただいております。より厳密な管理を要求されるチアノーゼ性心疾患や新生児の管理を通し、全身管理の奥深さと命を預かる重さを日々感じております。主に臨床に従事してきましたが、最近では学生教育や臨床研究にも関わらせていただき、さらに充実した日々を送っています。

これまで素晴らしい先生方や研修の機会に恵まれ自分のキャリアを積みさせていただきましたが、今後は後輩へも麻酔や医療の魅力を伝えられる医師になれるよう、何事にも全力で取り組んで行きたいと考えています。



# 行事のお知らせ

開催日時	開催場所	開催名
5/18(木)17:45～	大田市立病院	育成塾 Vol.2
5/26(金)18:00～	みらい棟4F ギャラクシー	総合医セミナー
6/16(金)17:30～	臨床大講堂	しまね研修ナビ
6/27(火)18:00～	みらい棟2F 共通カンファレンス室	総合医療学講座 医局説明会
8/4(金)18:30～	みらい棟4F ギャラクシー	総合医セミナー
9/17(日)	みらい棟4F ギャラクシー	学生交流会及びミニフォーラム

## 平成30年度採用 島根大学医学部附属病院 医科研修医選考試験日程

面接試験	試験日	応募締め切り
第1回	平成29年 7月15日(土)	平成29年 7月 5日(水)必着
第2回	平成29年 8月10日(木)	平成29年 7月31日(月)必着
第3回	平成29年 9月27日(水)	平成29年 9月13日(水)必着

## 診療科等紹介コーナー

当科の  
ここが自慢!!

### 精神科神経科

当講座では、初期研修医・学生を対象に月2回(月曜日17時～19時30分頃)、山口県仁保病院から本学臨床教授 國重和彦先生をお招きし、『映画鑑賞会(シネ・サイカイエトリー)』を開催しています。

これは映画を医学教材に『精神障害をテーマとした映画』を鑑賞し、國重先生の解説を通じ、精神疾患についての理解を深めることを目的とするものです。

参加者からは、『楽しみながら精神医学を勉強できる』と大変好評です。

会場は、臨床研究棟 5階 精神医学講座医局(3)、テーマ日時等の詳細は、学内掲示

板にチラシを掲示しております。興味のある方はぜひご参加ください。参加申込は0853-20-2262(精神医学講座事務室)です。

映画を観て精神医学を語ろう!



リハビリ  
テーション科  
の特色

### リハビリテーション科

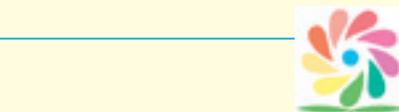
リハビリテーション科は、疾病に付随して起こる障害に対して治療や環境調整を行う診療科であり、様々な疾病・疾患を対象としています。

今年度からリハビリテーション部門は新たな職員を迎え、医師5名、看護師1名、理学療法士18名、作業療法士8名、言語聴覚士3名、クラーク2名の37名体制となりました。

増員により従来対象としてきた神経・運動器・呼吸器系疾患に加えて、近年拡大してきたがんや心疾患など内部障害・疾患のリハ需要を満たすべく、拡充を図っていく予定です。

その一環として心臓リハビリテーションの訓練・検査機器の充実を図っており、負荷心電図、最大酸素摂取量・無酸素閾値を測定する事で患者の心機能や運動能力に至適な運動処方を行なっています。

小児心臓外科術後についても術後の無気肺治療などにリハは関わっており、乳児から高齢者まで障害を有する限り全年齢を対象として診療を行っています。



### 編集後記

新緑の爽やかな季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今年も多くの先生方が研修をスタートし、早いもので1ヶ月がたちました(表紙の写真は4月のオリエンテーションやセミナー、研修医室での様子などです。素敵な笑顔ですね!)今年も、より充実した研修に向けて、スタッフ一同サポートさせて頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

### 島根大学医学部 キャリア形成支援部門

地域医療教育学講座 地域医療支援学講座 総合医療学講座  
地域医療政策学講座 卒後臨床研修センター  
クリニカルスキルアップセンター 病院医学教育センター

発行/島根大学医学部キャリア形成支援部門 卒後臨床研修センター  
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

お問合せ/TEL:0853-20-2006 FAX:0853-20-2375 E-mail:sotsugo@med.shimane-u.ac.jp